日本認知科学会第29回大会のご案内（第2号通信）

日本認知科学会第29回大会に約150件近くの多数の発表申込をいただきました。誠にありがとうございました。採択された発表（口頭発表、ポスター発表、ワークショップ）の論文集掲載用原稿は9月21日（金）が提出期限となっております。期限を厳守いただきますよう、何卒よろしくお願いたします。提出方法は「3 大会発表論文集原稿」をご参照ください。

本大会では口頭発表、ポスター発表、ワークショップのほか、会長講演、フェロー授与式、特別講演、2つのシンポジウムと多彩なプログラムを編成しております。特別講演は一般公開となっております。どうか多数のご参会をお願いいたします。

日程：2012年12月13日（木）～15日（土）

場所：仙台国際センター

（宮城県仙台市青葉区青葉山無番地）

大会 web ページ

<http://www.jcss.gr.jp/meetings/JCSS2012/>

大会委員長 行場次朗（東北大学）

実行委員長 小泉政利（東北大学）

プログラム委員長 永井聖剛（産業技術総合研究所）

プログラム副委員長 田中章浩（東京女子大学）

1. プログラム

現段階で決まっているプログラム内容についてお知らせします。

1.1. 会長講演（13日予定）

タイトル：統合的認知

講演者：横澤一彦（東京大学）

司会：橋田浩一（産業技術総合研究所）

概要：脳情報処理過程によって、我々の周囲環境もしくは外的世界についての豊富で詳細な情報を得ることができる。このような過程で、様々な特徴や多感覚を結び

付ける統合的認知の役割を解明することが益々重要になっている。要素還元的な理解ではなく、人間の行動全体を理解するために、いくつかの研究課題に分けて取り組んでいるので、その中から注意、感覚融合認知、美感、共感覚などの具体的テーマの研究の進展を紹介したい。

1.2. 日本認知科学会フェロー授与式（13日予定）

授与者：安西祐一郎、佐伯胖、長尾真、三宅なほみ

司会：横澤一彦（東京大学）

概要：日本認知科学会では2011年7月、日本の認知科学の発展に多大なる功績のあった者を顕彰するため、「日本認知科学会フェロー」制度を制定しました。フェロー称号の授与により、これまでの貢献に対して尊敬と感謝の意を示すことを目的といたします。2012年度大会では、創設初年度に本称号を授与される4名のフェローに対する授与式を行います。（授与式後に、フェローの皆さんに参加頂く企画を計画しております）

1.3. 特別講演（一般公開）（14日予定）

実践的防災学から認知科学に期待するもの

講演者：邑本俊亮（東北大学 災害科学国際研究所／大学院情報科学研究科）

司会：行場次朗（東北大学）

概要：平成24年4月、東北大学は災害科学国際研究所を設立した。当研究所では、災害というものを、事前の対策から、災害の発生、被害の波及、緊急対応、復旧・復興、将来への備えに至るまで、一連のサイクルとしてとらえ、それに対応できる社会システムを構築することをめざした「実践的防災学」の体系化と創成をミッションに掲げている。これを達成するためには、防災の主体である人間の「認知」に関する視点が必要不可欠である。本講演では、災害サイクルのそれぞれプロセスにおいて、認知科学がどのような貢献をうするのか、実践的防災学が認知科学に期待するものとはどのようなものなのかについて論じたい。

1.4. シンポジウム 1 (14 日予定)

「主語・目的語語順選好」は普遍的か：主語末尾型言語からの検証

企画者：小泉政利（東北大学）

講演者：玉岡賀津雄（名古屋大学）、酒井弘（広島大学）、杉崎鉦司（三重大学）

指定討論者：小泉政利（東北大学）

概要：言語の理解、産出、獲得、のいずれの領域においても、（動詞の位置にかかわらず）主語が目的語に先行する語順（=SO 語順）が、その逆の目的語が主語に先行する語順（=OS 語順）よりも好まれる傾向（=SO 語順選好）があることが知られている。しかし、従来の文処理研究は全て日本語や英語のように SO 語順を基本語順にもつ SO 型言語を対象にしているため、SO 語順選好が個別言語の基本語順を反映したものなのか、あるいは人間のより普遍的な認知特性を反映したものなのかが分からない。そこで、本シンポジウムでは、OS 語順を基本語順にもつ OS 言語を対象に言語の理解、産出、獲得の研究に取り組んでいる研究者を招き、OS 型言語における語順選好に関する最新の研究成果を披露して頂き、SO 語順選好の普遍性について検討する。

1.5. シンポジウム 2 (15 日予定)

知覚アプローチの現実場面への適用

企画者：永井聖剛（産総研）

講演者：渡邊克巳（東京大学）、本吉勇（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）、熊田孝恒（理研 BSI）

指定討論者：齋木潤（京都大学）

概要：伝統的な知覚研究では統制された実験刺激・環境のもと、低次の人間情報処理システムを断片的（運動視、立体視等）かつ詳細に理解してきたといえる。しかしながら、近年、知覚アプローチが適用される研究領域が拡がり、無味乾燥な実験室環境ばかりではなく、我々の日常生活に関わりのある高次情報処理へも適用されるようになりつつある。本シンポジウムでは、基礎的な知覚研究を国際レベルで牽引し、かつその日常・産業場面への適用に積極的に取り組んでいる研究者を招き、好み、

アート、産業等のトピックに関する最新の研究成果をご紹介いただき、今後の展望・課題も含め議論する。

1.6. ワークショップ (15 日予定)

2. 締め切りなど重要な日程

a) 重要な日程

発表論文集掲載用原稿提出期限：【締切厳守】2012 年 9 月 21 日（金）

b) 参加申し込み・参加費用

オンラインにて事前に参加申し込みいただけます。

<http://www.jcss.gr.jp/meetings/JCSS2012/participation.html>

大会参加申し込み費用は以下の通りです。早めにお支払いいただくと幸いです。

大会参加費	会 員		非会員	
	一般	学生	一般	学生
早期登録 (10月12日まで)	6,000 円	3,000	9,000	6,000
通常登録 (10月13日以降)	7,000 円	4,000	10,000	7,000
懇親会参加費	5,000 円	2,000	6,000	3,000

振り込みは、下記のゆうちょ銀行口座をお願いします。

口座記号番号：02220-7-134415

口座名称：日本認知科学会第 29 回大会実行委員会

※他行から上記ゆうちょ銀行口座への振り込みの場合

店名（店番）：二二九（ニニキユウ）店（229）

預金種目：当座

口座番号：0134415

なお、大学・企業等に属する方が公費で支払い手続きをされる場合、会員名がわからずに困ることがあります。どなたの分の参加費かを特定するのに手間がかかりますので、所属組織経由で振込をされる場合は、次の情報

を《大会参加申し込み時に》実行委員会
jcss2012@jcss.gr.jp宛にご連絡ください。

・いつ

・どの銀行から

・誰の名義で振り込んだか（当該組織の会計担当者・
職名になることがあります）

複数名の参加費をまとめて振り込む場合も同様です。
明細をお知らせください。領収書は、大会当日の配布資
料とともに受付でお渡しします。

3. 大会発表論文集原稿

発表が採択された場合には仕上がり 10 ページ以内の
発表論文集用完成原稿と、パンフレット用の 200 字の要
旨を書いていただきます。

発表論文集掲載用原稿提出期限までに、大会ホームペ
ージに完成原稿を PDF でご送付ください。

PDF が作成できない場合は、上記期日消印有効で下
記まで印刷された原稿を郵送してください。（宛名面に、
「発表論文集原稿」とお書きください。）

〒305-8566

つくば市東 1-1-1 中央第 6

産業技術総合研究所

ヒューマンライフテクノロジー研究部門

認知行動システム研究グループ内

JCSS2012 プログラム委員会 永井聖剛

なお、発表論文集は紙媒体ではなく、CD の形でのみ
発行します。またページ数の上限を 10 ページとしてい
ますが、けっしてページ数を増やすことを推奨するもの
ではありません。読者の利益を念頭に、図表等を有効に
活用しながら明瞭・簡潔な原稿執筆を心がけてください。

4. 発表論文の公開

発表論文は事前（おおむね大会 1 週間前、そして大会
後当分の間）に web で公開する予定です。論文集の発行

日は大会初日の一週間前とします。論文集発行日が公知
日となりますので、特許関係等の日程にご注意ください。

5. 大会発表賞

すぐれた若手発表者に対して大会発表賞（口頭発表・
ポスター発表）の授与を予定しています。大会発表賞の
受賞資格者は以下の条件を全て備えている方とします。

条件 1：本学会会員（正会員、学生会員）であること。

条件 2：生年が 1979 年以降であること。

条件 3：所定の大会発表手続きを完了していること。

条件 4：第 1 発表者であること。

6. 問い合わせ先

大会関係のお問い合わせは、以下までお願いいたしま
す。

大会運営一般に関して： jcss2012@jcss.gr.jp

大会発表、査読、プログラム一般に関して：

jcss2012-pc@jcss.gr.jp